

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 26 年 11 月 28 日 (金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 : 22 名 (委員の氏名・所属等は巻末別添資料参照) 学内関係者 : 9 名
配布資料	① 式次第 ② 参加者委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 平成 26 年度第二回学校関係者評価委員会 会議資料 ⑤ 平成 25 年度版自己評価報告書 抜粋版 ⑥ 教育訓練給付金リーフレット、建設通信新聞関連記事写し、RJP ペーパー創刊準備号
会議録	<p>1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 東京テクニカルカレッジ白井企画部長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、三上孝明 (専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) が挨拶を行った。</p> <p>3. 委員紹介 (白井) 事務局より、委員名簿に基づいて委員の紹介が行われた。</p> <p>4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、霜野隆 委員が委員長並びに議長に選出された。尚書記は事務局が担当した。</p> <p>5. 開催要件の確認 事務局より、委員 29 名中 22 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 第一号議案：平成 26 年度第 1 回会議議事録の確認および前回会議第 4 号議案審議内容より本年度に改訂する自己点検評価報告書への加筆事項の確認について 議長は事務局に対し、平成 26 年 7 月 18 日に開催された第 1 回学校関係者評価委員会議事録の読み上げ、その説明をさせた後、これを出席者にはかったところ、満場一致により齟齬がないことが確認された。 また事務局より①H26 年度組織改編 (学生支援体制の改善)、②職業実践専門課程認定(外部意見の活用)、③教育訓練給付金制度認定(学生支援の充実)、④文科省中核的専門人材養成プログラム開発事業の受託 (特徴ある外部連携) の各点に関して、自己点検評価報告書へ追加記載することについて提案が行われ、委員全員の了解を得た。</p> <p>(2) 第二号議案：平成 26 年度事業計画進捗状況報告 議長は事務局に対して資料④を用いて学校運営の改善、その他教育活動に関する説明を行わせた。当委員会指摘を反映した学園組織の本部制への変更、職業実践専門課程認定、教育訓練給付金制度関連書類提出、さらに文科省委託事業「環境・エネルギー分野中核人材養成プログラム開発」に関する報告の後、「リアルジョブプロジェクト (RJP)」の授業進捗状況について建築系、バイオ系、情報系毎に説明が行われた。</p> <p>(4) 第三号議案：取り組みに関する意見交換 議長は、二号議案の説明も含め、各委員に意見を求めたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の横のつながりが仕事に繋がる事案が多くなっており、このつながりを強化する必要性がある。卒業生の連携が希薄である。WEB の積極的利用 (三輪設計安藤氏、富士通 小屋松氏) ・RJP が学校だけ、内側だけでおわらないこと。外部への発信、サイトの重要性 (イマカラ 野氏) ・RJP の予算的な措置、具体的な配分や達成目標、進行管理そして評価をどのように進めているのか (理研 立田氏) ・RJP を次世代にどのように引き継いでいくのか (理研立田、保護者 飯沼氏、町内会会長岸氏) ・RJP のカフェを使いながら、東京テクニカルカレッジならではのものを作るなど、次に向けた展開の必要性 (建築家協会 大塚氏) ・均質化する学生の現状と独創性を高める工夫の必要性 (中野商工会議所 中山氏) <p>といった RJP の進め方、今後の展開に関するご意見が多数得られた。 自ら積極的に学び、それを外部に展開することが重要であり、その方法としての RJP プロジェクトに対する各委員の期待の大きさが感じられた。 その他就職指導に関する取組み状況や、留学生募集に対する考え方などについての質疑が行われた。 最後に霜野議長より、全体の取り組みに関して活動の是非を出席者にはかったところ、満場一致で異議無しとの結論であった。</p> <p>7. 閉会の辞 (議長) 議長より閉会が宣言され、校長の三上より本年度の委員会終了ならびに引き続きの協力要請の後閉会となった。</p>

以上